

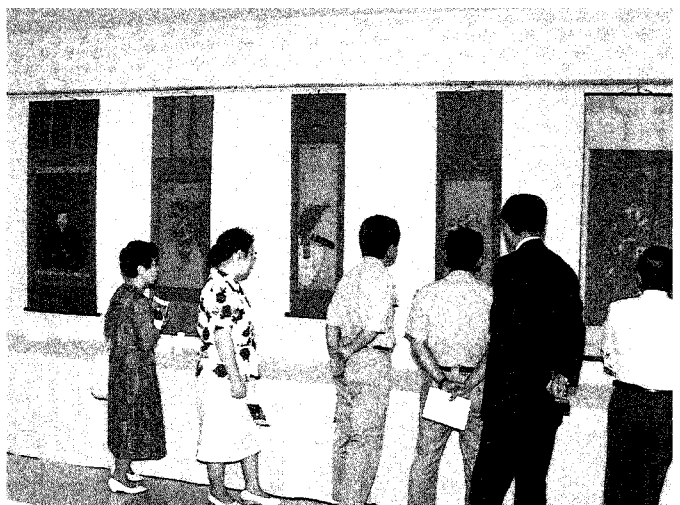
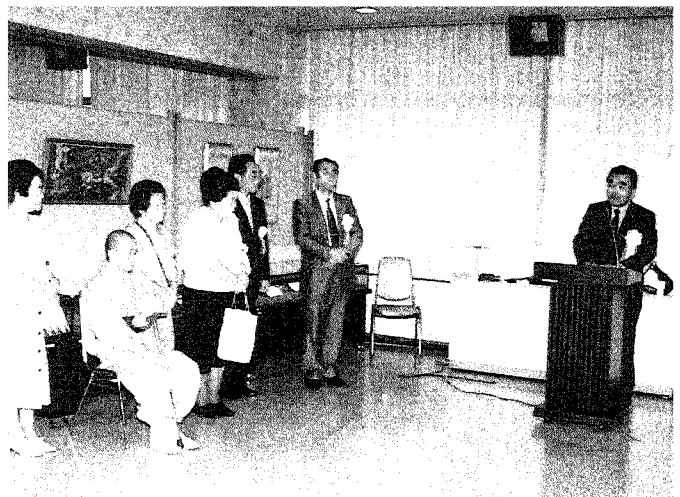
# 『都留郡領主小山田氏展』 盛会裡に終わる

信玄公ブームの中、戦国時代の郡内領主小山田氏の遺品を一堂に集め、去る九月一日～九月四日の四日間「郡内領主小山田氏展」が開催され、地域の方々はもとより、県内外から連日予想を上回る見学者で賑わいました。

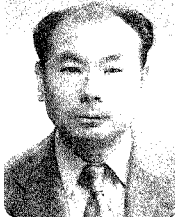
展示品の中には、家伝品で今回初めて公開される物が多かったため、見学者は皆めずらしげに鑑賞していました。

今回の小山田氏展開催によりわたしたち都留市民が郡内地方の中心として栄えてきた都留市を理解し、郷土の歴史文化を研鑽することができたことは大変有意義でした。

開催にあたってご協力いただいた出展者及び郷土史研究家の方々にお礼申し上げます。



## 小山田氏展を終えて



山梨学院大学教授 工学博士 小山田了三

この度の御市主催の「都留郡領主小山田氏展」には、関係者の長年にわたる小山田氏研究への御努力に打たれて、春の講演会「わが祖小山田信義」に続いてご協力させて頂いた。

郡内小山田家は、天正十（一五八二）年、父信茂が武田存続を狙い、女婿武田左衛門佐を立てて織田方に賭け、子信綱らは万一に備

え北条方へという両面策を立てた。が父の策は成らず、北条軍の無血入郡を選ぶが、当家は間もなく北条軍の撤退と共にこの地を去った。数えてみれば、展示の日は、その時から四百六年を経ている。

その間郡内小山田家については、幕末から近年までの長い間、武田氏の家臣とのみ位置づけられたり、最後の去就についても批判を受けるだけのことが多かった。また、信茂の孫が武田竜芳（信玄公二男）の孫に嫁して、武田家を徳川家旗本として再興させた史実についても、故意に語られないことが多かった。

これに対し、都留市郷土研究会の諸先生の熱心なご努力によって、今日やっと信茂の戦国における立

場が正しく、理解されるようになったことは、関係者の方々の熱意と相まって、今回の展示会の大成功によっても裏付けられたことであり、その末孫の一人として感謝の気持ちで一杯である。

この度の展示では、かつて先祖が居住していた時、この地の御先祖の方々の目にも触れたであろう仏像や書画を展示させて頂いた。

今回の多数の方々への参加を見て、市民の皆さんが、戦国という時代の中で甲斐の文化の中心たらんとしていた当時の都留郡の人々の心意気を感じて下さり、これからの都留市が、山梨の文化都市として大発展を遂げることを夢見て、必ずや邁進されるにちがいないと確信がもてた次第である。